

# 琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 日本政府  
援助琉球政府財政赤字問題 (1)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43565">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43565</a>

米  
倒  
回  
答  
45  
/7  
/8

外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印) <b>秘</b>	符号表示 暗 (略) 平	※ 総第 号
	※ 第 126 号	※ 昭和 45 年 7 月 8 日 時 分 宛
	大至急 (至急) 普通・LTF	※ 發電係

大 臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主管 P 外務局長 参事官 北米米下田	主管局部課 (室) 名 米北 1
		起案 昭和 45 年 7 月 8 日 起案者 吉川 電話番号 445

協議先  
糸々長  
糸規長

在 沖繩高瀬 大使 臨時代理大使  
総領事 代理 であて 夏知 大臣 發

在 米下田 大使 臨時代理大使  
報 総領事 代理 であて

件名 琉政の財政健全化に用いた日米協議

往電第 117 号に用い。

1. 冒頭往電に 2 通報したわけを申し  
入りに対し、7 日在京米國大使館別  
口頭でも 2 非公式に米側の考え方を  
回答越すとともに、参考資料を右回

(※印欄内は電信課記入)

(昭和四二・七・一改正)

GB-1

答の内容を記載した別電のとおり  
又元を提示越した。通報す。  
2. 本件については、今後本省と沖縄・  
北方対策等との間で具体的検討を  
進め、又それと米側と協議する  
予定にあり、その間本件米側回答の  
貴使にお含みまでとさせていただきます。  
別電とともに、米に転電した。  
(了)

GB-3

外務省

(回覧番号) 外務省電信案 (分類)

電信課長	機密表示 (極秘・秘の朱印)	符号表示 暗 <input checked="" type="radio"/> 略 <input type="radio"/> 平 <input type="radio"/> 総第	号
	利	第 127 号	※昭和45年7月8日 時 分 秒
		大至急 <input type="radio"/> 至急 <input checked="" type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> LTF	※ 発電係

(※印刷内は電信課記入)

大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アメリカ局長 参事官 北米参事官	主管局部課(室)名 米北1
		起案 昭和45年7月8日
	起案者 吉川	電話番号 445

協議先

在 沖繩高瀬  大使 臨時代理大使  
総領事 代理 えて 夏知 大臣 発

在 米下田  大使 臨時代理大使  
総領事 代理 えて

件名 琉政の財政健全化に用いた日米協議

往電米北1第126号別電

6/30  
付

(昭和四二七一改正)

Confidential

秘  
無期限

July 7, 1970

Draft US Government Talking Points  
GRI Budgetary Situation

1. USG welcomes GOJ increased involvement in GRI budgetary formulation and implementation. USG will do what it can to assist the GOJ in this regard.
2. USG supports GOJ intentions to advise the GRI to terminate certain projects, but USG would wish to discuss locally with GOJ representatives the specific projects to be advised against before GOJ initiates discussion with the GRI.
3. USG supports the GOJ proposal that it provide advice to the GRI on personnel expenditures, particularly that its expenditures be reduced by (a) attribution, (b) encouragement of early retirements, and (c) minimizing of salary increases.
4. With reference to the GOJ willingness to advise the GRI on increasing taxes in accord with the ittai principle beginning in December, USG points out that USG and GRI already are engaged in conversation in Okinawa regarding the tax structure. This work, in the Joint Tax Committee, is progressing smoothly and ix

- 2 -

- ix applying the ittai principle. Should the GOJ wish to participate in or observe these discussions, the USG would be happy to recommend to the GRI that this be done. USG has made it clear in the Joint Tax Committee that HICOM ordinances having tax implications are to be considered along with GRI tax statutes, but the GRI must show that it is willing to take effective steps to redress imbalance in own tax system before USG will give consideration to substantial modification HICOM tax related ordinances.
5. USG cannot concur in termination USCAR mark-up of petroleum products. Revenues to be derived from mark-up on POL sales already are earmarked for utilization in FY 71 and FY 72 General Fund Program for assistance to GRI. USG suggests that USG and GOJ attention be directed instead to seeing that GRI taxes are raised to a point at which the charge to the user, including the USCAR mark-up, is identical with that with Japan proper.
  6. USG concerns in the dispatch of GOJ survey team to the GRI this fall.

7.

7. USG is willing to discuss with the GOJ any aspects of its proposed aid program to the GRI in FY 71 and FY 72. However, FY 71 aid program already has been approved by the U.S. Congress, and FY 72 aid program which is inter-related with the FY 71 program, has already been sent to Washington for initiation of the approval process, which includes approval of expenditures from both the General Fund and ARIA budget. USG cannot therefore consider GOJ's proposal that GOJ take over certain USG projects before reversion. To attempt to do so would endanger Congressional approval of FY 72 assistance program to GRI. Nevertheless, USG technical experts are ready to discuss this in detail with GOJ representatives.
8. USG concurs in desirability close coordination between USG and GOJ aid programs to the GRI between now and reversion. However, as mentioned above, USG aid program has been rather definitely fixed for both FY 71 and FY 72.

秘

琉球政府予算状況に關する米國政府見解(案)

1970年7月7日

1. 米國政府は、琉球政府予算の編成及び運用に

關する日本政府の協力の増強を歓迎する。米國

政府は、この点に關し、可能な範囲内で日本政府を

援助する。

2. 米國政府は、琉球政府に対し、一部産業廢止を

勧告する旨の日本政府の意向を支持するが、これに

日・琉兩政府間協議の開始は先立ず、当該

産業について、日本政府の表と現地に於いて

協議したい。

3. 米國政府は、人件費に關し、特に(2)欠員不補充

総 理 府

B-5 3S-10- (10)政研のり

(b) 勸奨退職、(c) 給与増額等の抑制等による

経費削減に關する指導を行ふ旨の日本政府提案

を支持する。

4. 一体化方針に關し、12月より増税を勧告

した旨の日本政府の意向に關し、米國政府は、

米・琉兩政府間の沖繩に於いて、税制に關する

協議を促進して実施してゆく旨を指摘したい。この

件は、合同税務委員会に於いて、円滑に遂行してあり、

一体化方針を適用している。日本政府がこの協議に

参加するに停頓を望むなれば、米國政府は琉球

政府に対し斡旋の労をとる必要を感ぜず、米國

政府は合同税務委員会に於いて、明示した案は、税

総 理 府

B-5 3S-10- (10)政研のり

関係の高等学務官布令は、琉球政府の税法に  
 したかゝる検討を以てして、琉球政府は  
 米國政府の總領事官布令の大幅な修正を  
 考慮するに急ぎ、琉球自身の税制の不均衡を  
 是正する有効な措置を、速く一掃の意向を、示す  
 旨を述べた。

5. 米國政府は、石油産品に對する米民政府課徴金  
 廢止には同意しない。石油課徴金に對する収益は  
 牙2に、1971及び1972會計年度琉球一般  
 基金計画に使用される旨、指定されている。米國政府  
 は、その代りとして、使用者に對する課徴金（米民政府  
 の課徴金を含む）を増額して下すこととするに、

日・米府政府の留意事項) 提案する。

6. 米國政府は、琉球政府に對する日本政府謝罪金  
 の派遣(今秋)に同意する。

7. 米國政府は、1971及び1972會計年度米國援助計画に  
 ついて、11月26日日本政府と協議する  
 用意ができた。しかしながら、1971會計年度援助  
 計画は、牙2に米國議會の承認を得ず、牙2  
 1972會計年度援助計画(前年度計画と相互関係にあり)  
 は、承認(一般基金及びARIA等からの支出承認を  
 含む)を得ず、牙2にワシントンへ  
 送付された。したかゝる、米國政府は、復帰前に  
 日本政府の一部米國政府事業を引継ぐこと、日本



政府の提案を考慮していない。その対応措置をとり  
1972会計年度援助計画に付了り英国議会の承認  
の取付けが難しくなる。しかしながら米政府の技術  
専門家らと日本政府代表と二回ほどにわたって詳細に  
協議する用意がある。  
8. 米政府は、今後復帰するに日・米両政府援助  
計画の密接な調整が望ましいことに同意する。しかし  
その必要は認められず、米政府援助計画は、1971  
年と1972年会計年度分とを、かなり確定的な状況と  
して置く。

(回覧番号) 外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印) <b>秘</b>	符号表示 暗 <b>略</b> 平	総第 <b>08 150</b> 号
第 <b>1255</b> 号		昭和 年 月 日 時 分 秒
大至急 <b>至急</b> ・普通・LTF		発電係 <b>0-29</b>

大 臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主管 アメリカ局長 参事官 北米才一課長	主管局部課 (室) 名 <b>米比1</b> 起家 昭和45年7月8日 起家者 電話番号 吉川 445
--	-------------------------------	---

協議先

在 **米下田** **大使** 臨時代理大使  
総領事 代理 えて **愛知** 大臣 発

電 在 大 使 臨時代理大使  
報 報 総領事 代理 えて

件名  
**琉政の財政健全化に関する日米協議**

**沖縄あて往電米比1才126号転電**

字  
済

(※印欄内は電値録記入)

(昭和四二・七一改正)

(回覧番号) 外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印) <b>秘</b>	符号表示 暗 <b>略</b> 平	総第 <b>08 152</b> 号
第 <b>1256</b> 号		昭和 年 月 日 時 分 秒
大至急 <b>至急</b> ・普通・LTF		発電係 <b>3</b>

大 臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主管 アメリカ局長 参事官 北米才一課長	主管局部課 (室) 名 <b>米比1</b> 起家 昭和45年7月8日 起家者 電話番号 吉川 445
--	-------------------------------	---

協議先

在 **米下田** **大使** 臨時代理大使  
総領事 代理 えて **愛知** 大臣 発

電 在 大 使 臨時代理大使  
報 報 総領事 代理 えて

件名  
**琉政の財政健全化に関する日米協議**

**沖縄あて往電米比1才127号転電**

字  
済  
561

(※印欄内は電値録記入)

(昭和四二・七一改正)